

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2019

「健やかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第2回 10/7 (月) 13:30～15:00 報告

図書館から地域を変える

講師 アンドリュー・デュアー (本学教授) 於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*◆◆◆*

令和元年度第2回公開講座(受講者21名)が10月7日に開催されました。本学図書館長兼管理栄養学科教授のアンドリュー・デュアー先生による「図書館から地域を変える」と題された講演は、図書館の活用次第で地域が変わるというお話でした。図書館機能の変化を踏まえて、現代社会において図書館が果たし得る役割や、個人がわが町を元気にするために図書館をどのように利用したらよいか、市民主体で仲間づくりをする拠点としての図書館の在り方について考えるきっかけとなりました。まさに“知の宝庫”である図書館をいかに活用したらよいかというお話のなかで心に残った内容をいくつかご紹介します。

人間は社会をつくる動物です。個人の生きる力には限界があるので、人間は集まって力を合わせて暮らすようになりました。定住することで地域が生まれ、地域に特色ができ、文化が育まれていきました。人が増えればリーダーが誕生し、結果として少ない特定の人物が地域の行方を決めることとなります。地域という言葉の意味を踏まえて、図書館がどのように誕生したかについて聞きました。

古代の図書館は、文字が誕生した約5千年前に、資料を保管する目的で建てられました。当時は行政の文書館、あるいは研究者のための施設でしたが、古代ローマ時代にジュリアス・シーザーは、私財で市民の集う場所として図書館を建てようとした。市民が賢くなれば地域が発展すると考えてのことでしたが、志半ばで暗殺されてしまいました。そこで、初代皇帝がシーザーのその想いを継いで、次々と公共図書館を建てたのです。公衆浴場にはお風呂の他に、図書館、運動場や集会室、美術館、食堂などの多機能を備えていました。

英米の図書館は「会員制」で始まりました。それは、使う人が会費を出して利用することですが、「労働者と農民に本を読ませてもいいことはない」とも考えられていました。やがて産業革命が軌道に乗ると、義務教育とともに庶民のための公共図書館が作られるようになりましたが、エリートたちの危惧が大きかったことも確かです。転換点は、鉄鋼王といわれるアンドリュー・カーネギーの図書館でした。貧しい中で勉強し、富を蓄積したカーネギーは、住民のために何かしたいと考え、膨大な数のカーネギー図書館が、ニューヨーク・カーネギー財団の支援により建てられました。

日本の図書館は新聞や本の閲覧・貸出サービスだけで、ほとんどが閉架室でした。そのような図書館の概念を裏返したのは、日野市（東京）のように利用しやすさを重視した図書館です。日野市は移動図書館からサービスを始め、需要を作ってから建物を建てるという賢い方法でした。

昨年「ニューヨーク公共図書館」という映画が封切られましたが、欧米の地域と図書館の関係は注目に値します。書籍・資料の所蔵、閲覧・貸出だけではなく、講演会や語学教室、就職支援、歴史保存、集会所、貧しい子どもの学習塾やインターネット機材の貸し出しなど、その機能は多様です。社会的弱者への支援が、従来のサービス以上に図書館の中核的サービスとなるくらい、福祉的な役割を果たしています。図書館の使命のなかに地域貢献・地域改善が明確にあるからです。社会のインフラとして使いやすく有益である図書館は、全ての利用者を平等に、しかも大切に扱っています。特に、図書館は「インバウンド」にとって地域の玄関口なのです。

例えば、トロントの図書館には多くの移民が訪れますが、対応に困ることはありません。何故ならば館長がスタッフに「どんな言語を使えるか」とアンケートを取り、100語もの言語に対応できることがリスト化されているからです。

また、荒れている地域では図書館は安全地帯でもあるという人もいます。

図書館が提供する資料と知識と場所は、地域を好循環させます。問題解決を支援したり、ビジネス支援、レファレンスサービス等に応えたりすることによって、例えば災害に備えるサービスも生まれます。また、地域のアイデンティティを後世に残す、さらには地域のアイデンティティを作り上げる支援にも発展します。人材の発掘、交流の場として多くの人に利用されるということは、様々な形で知見が図書館にフィードバックされ、好循環が生まれるということです。違う目的で集まった人たちが図書館で出会い、語り合うことで、新たな活動につながることもあります。

日本では図書館と公民館の機能が縦割りになりがちですが、ここ十年くらいは複合施設として漸く欧米のように多様な機能を備える図書館が現れるようになりました。図書館は、マンネリ化した生活に新たな刺激と希望を与え、地域活性化に欠かせないインフラになるべきだというお話は、日々の暮らしのなかで私たちが上手に図書館を利用することで、地域を変える主体になれるということでもありました。

【講座の様子】

